

騎西城跡(加須市)

きさい

築城年代:不明、築城者:不明

正面は騎西文化・学習センターなどの複合施設に建つ模擬天守/元々は騎西城に天守は無かったという



赤丸が模擬天守の位置/白地の部分は当時は外堀であったようだ



騎西文化・学習センターなどの複合施設



正面の騎西文化・学習センターの南角に白い標柱が立っている



天神曲輪跡とある



その左手に模擬天守が建つ



郷土資料展示室となっている



説明坂

騎西城跡

騎西(私市)城は、いつ誰の手による築城かは不明だが、康正元年(一四五五)、上杉・長尾・斤鼻和氏等が守る城を、古河公方足利成氏が攻略したのが初見である。永禄六年(一五六三)には、小田助三郎が守る騎西城を上杉輝虎(謙信)が攻め落している。

徳川家康が開東に入った天正十八年(一五九〇)、松平康重が二万石で城主となる。康重は大英寺(騎西)を開基し、保寧寺(日出安)に寺領を与えている。その後、大久保忠常・忠職父子が城主となり、玉敷神社を現在地に遷座するなど、城下町騎西の再編を行った。寛永九年(一六三二)、忠職の美濃国加納城(岐阜県岐阜市)移封に伴い騎西城は廢城となった。

掘り出された騎西城

昭和五四年からの発掘調査により、城郭・武家屋敷跡から戦国・江戸初期の堀跡や武器・武具・生活用具が出土している。城の周囲は二重の障子堀が巡り、掘幅の最大は四五メートルであった。激戦に備え総力で築いたことを物語っている。

出土品は多様で、国内外の陶磁器、矢じり・鎧金具・火打金等の金属製品がある。このほか、大量の漆・木製品も出土している。漆黒の兜、金色に輝く馬の鎧、鶴文の漆椀に加え、下駄・荷札・呪符・護符など、いずれも城下の暮らしぶりを鮮やかに甦らせる。



騎西城復元図 (●印は案内板・標柱状)

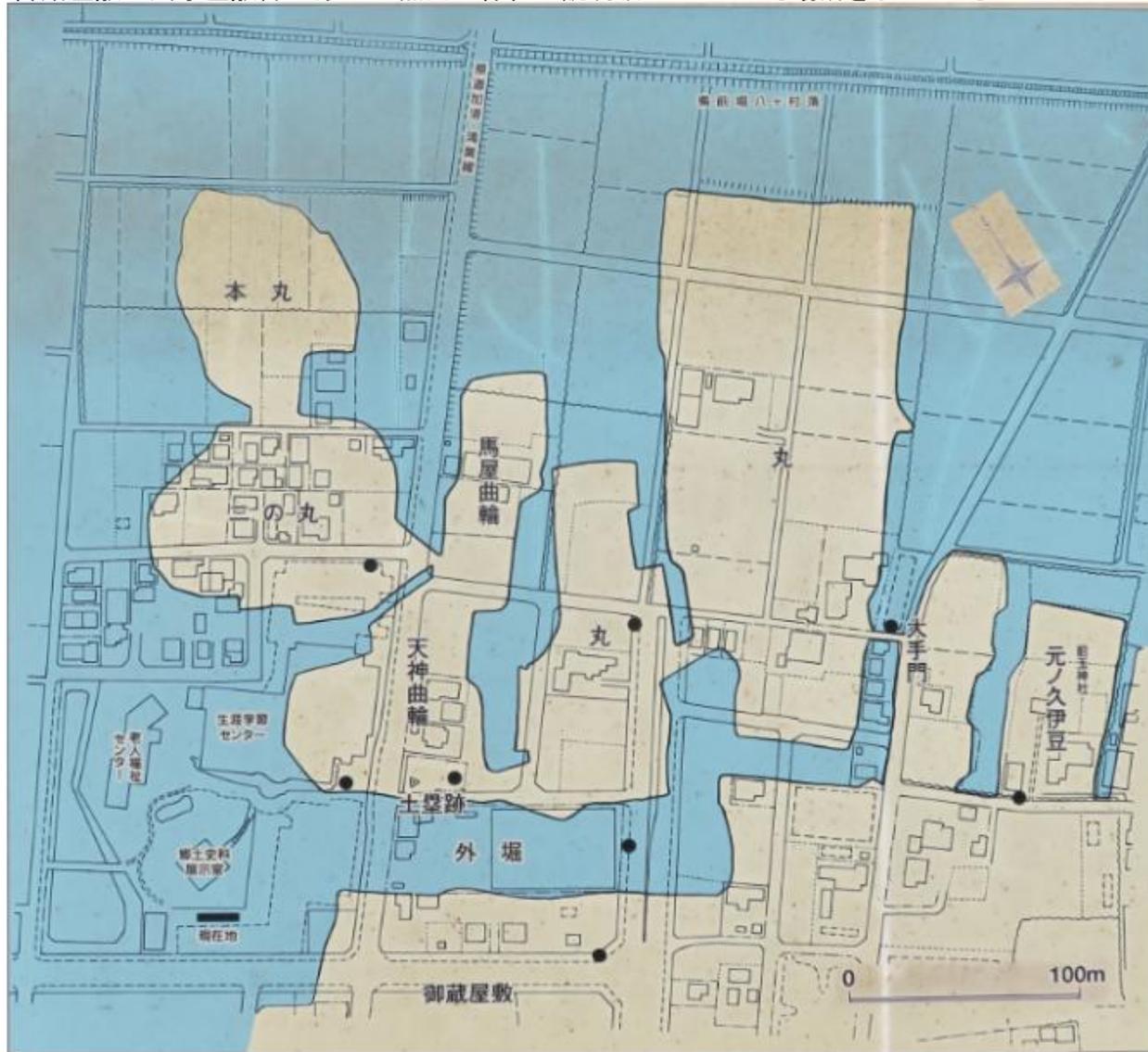


茶の湯道具 (湯釜・細部馬首茶碗・陶製茶入)



十六間鎧兜 (町指定文化財)

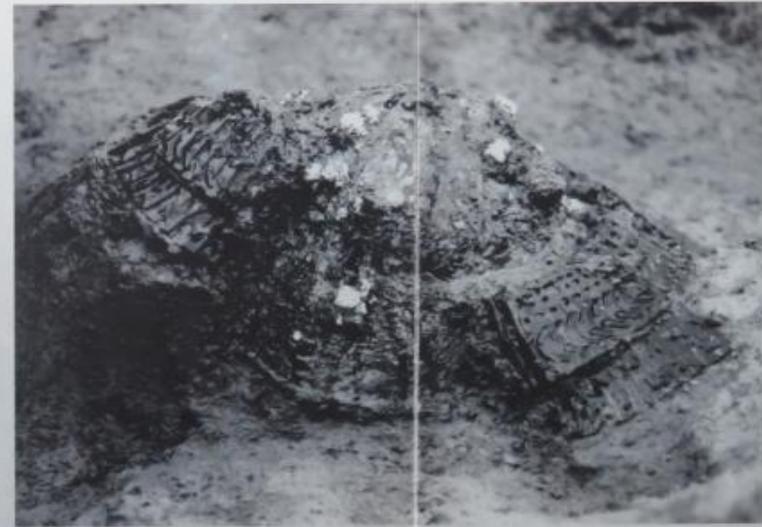
縄張図/泥田沼(外堀)で守られた城であったようだ/右手の大手門から各曲輪を通して本丸へ至るようになっている/大手門の手前には元ノ久伊豆(前玉神社)や、いわゆる根古谷地区と云われるエリアがあり、御蔵屋敷や武家屋敷群があった/黒丸は標柱や説明坂が立っている場所を示している



発掘調査での出土品



湯がま おりべぐるくつぢゃわん かたつぎちやいれ
茶の湯 道具 (湯釜・織部黒沓茶碗・肩衝茶入)



じゅうろっけんすいかぶと
十六間筋兜 (町指定文化財)

模擬天守の後(西側)へ廻ると池があった/前方に模擬天守が見える



当時の水堀跡なのであろうか



騎西文化・学習センターなどの複合施設(左手)の前面道路を、南西側から北東方向に見たところ/右手に土塁が見える/土塁は左手に続いていたのであるが道路等により、破壊されてしまったということのようだ/土塁の向こう側が天神曲輪跡のエリアになる



これが天神曲輪跡に残る土塁



北西側から見たところ/この左手が天神曲輪跡、右手が外堀そして御蔵屋敷跡



左手から見たところ



そこで南西方向を見たところ/手前が外堀で、その向こう側が御蔵屋敷跡のエリア



さて、土塁の上に標柱が立っている



きさい
「私市城址」とある



南側から見たところ/写真奥の木がある一寸高い部分が当時の土塁で、そこから写真手前の部分は復元延長されたものらしい



説明坂が立っている



武州騎西之絵図

騎西城は、戦国から江戸時代初めまで存在した城である。戦国時代には小田原家・騎三郎父子、成田春勝が居城し、江戸時代には赤松重実、大久保忠常・忠純父子が城主となり、その名を残した。

この絵図は大久保氏が居城した慶長七年（一六〇二）から寛永九年（一六三二）頃の騎西城を再現したものである。騎西城は小田原城で明治維新を迎え、その後が今知悉に伝えられた。この絵図は小田原城跡に伝えられた。



この絵図は、ほぼ中央に河や深田に囲まれた騎西城が描かれている。戦国時代、騎西城を攻略した上杉謙信はその様子を「騎西城は四方の河が深田限りなく、一段と熱るべき地て、調遣叶い難し」と書状に記している。

城下には堀が縦横に走り、入口や要所には門や寺社が配置され、容易に侵入できない様子が窺える。城の南側には武家屋敷が広がり、六〇余りの侍が居を構え、妙光寺から東には足利町が置かれている。町場は「本町」と「本宿」で形成され九〇軒近くが軒を連ね、本町では六番市（月のうち六回開かれる定期市）が立っている。町場の西門からは熊谷へ、南門からは江戸への街道が延びている。

加須市教育委員会

騎西城は戦国から江戸時代初めまで存続した城である。戦国時代には小田頭家・助三郎父子、成田泰喬が居城し、江戸時代には松平康重、大久保忠常・忠職父子が城主となり二万石を賜った。

この絵図は大久保氏が在城した慶長七年（一六〇二）から寛永九年（一六三二）頃の騎西城下を描いたものである。同氏は後に小田原城で明治維新を迎え、当絵図が小田原に伝えられた。

原図 小田原市立図書館収蔵 岩瀬正直氏寄託

この絵図は、ほぼ中央に沼や深田に囲まれた騎西城が描かれている。戦国時代、騎西城を攻略した上杉謙信はその様子を「騎西城は四方の沼が浅深限りなく、一段と然るべき地で、調儀叶い難し……」と書状に記している。

城下には堀が縦横に巡り、入口や要所には門や寺社が配置され、容易に侵入できない様子が窺える。城の南側には武家屋敷が広がり、六〇余りの侍が居を構え、妙光寺から東には足軽町が置かれている。町場は「本町」と「本宿」で形成され九〇軒近くが軒を連ね、本町では六斎市（月のうち六回開かれる定期市）が立っている。町場の西門からは熊谷へ、南門からは江戸への街道が延びている。

町指定史跡 騎西城土塁跡

土塁の移り変わり

江戸初期の絵図を見ると、東に大手門を配し、二つの曲輪・天神曲輪・馬屋曲輪・二の丸と駒の手状に構成され、本城(本丸)へ容易に攻め込まれないような構造となっている。さらに押し寄せる軍勢や時矢・弾丸に対し、防波堤となるべく土塁(黒い太線)が大手から本城までの全周を、延々と通っていたことがわかる。

寛永九年(一六三二)に廃城となった後の衰亡は著しく、寛保年間(一七四一、四四)には本丸・二の丸の土塁が崩され、安政年間(一八五四、六〇)に至ると城跡の竹林が開墾され、江戸末期にはほとんど畑となった。明治・大正期には、図のように丁字形(灰色)に残るのみとなり、県道が城跡を貫通した後の土塁はいっそう小さくなり、昭和四〇年頃の写真にわずかにその名残りをとどめている。

現在、土塁はここに残るのみで、当時の姿を伝える西側の高い部分が旧来の土塁(高さ3m)、こちらの低い部分が在りし日の騎西城を偲ぶため、平成一〇年に復元延長したものである。



明治・大正期の騎西城



昭和40年頃の土塁

より高く堅固に

拡張された土塁

発掘調査によると、土塁の高さは3m以上、下幅は一〇m以上あったものと思われる。断面を観察すると、崩れにくいように灰色土と黄色土を交互に叩き固めている。また、積み方が一様で無いことから、土塁築造後、拡張し修復されたものと思われる。



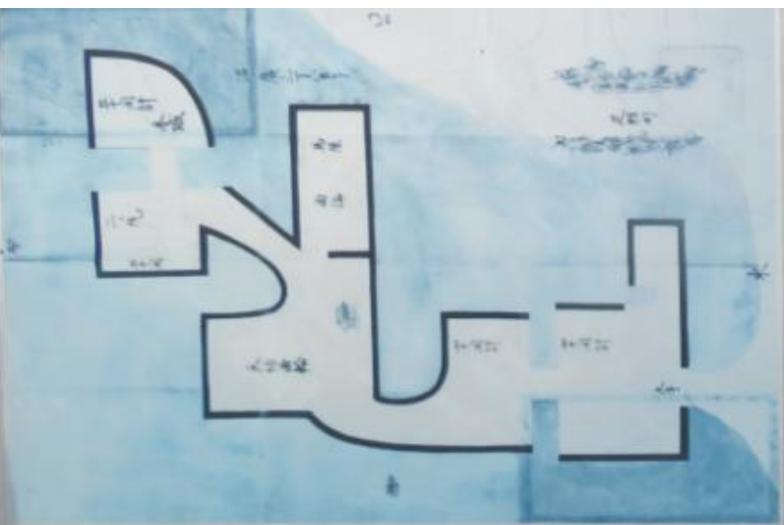
土塁の断面

騎西城は、越後の上杉謙信、小田原の北条氏にとって関東支配の前進基地として重要であった。そのため、幾度か攻められ、それを凌ぐため堀はより広く、土塁はより高く築かれた。南に幅五〇mの障子堀をもつこの土塁は、攻める者に圧倒的な威圧感を持って対峙したであろう。

土塁とは

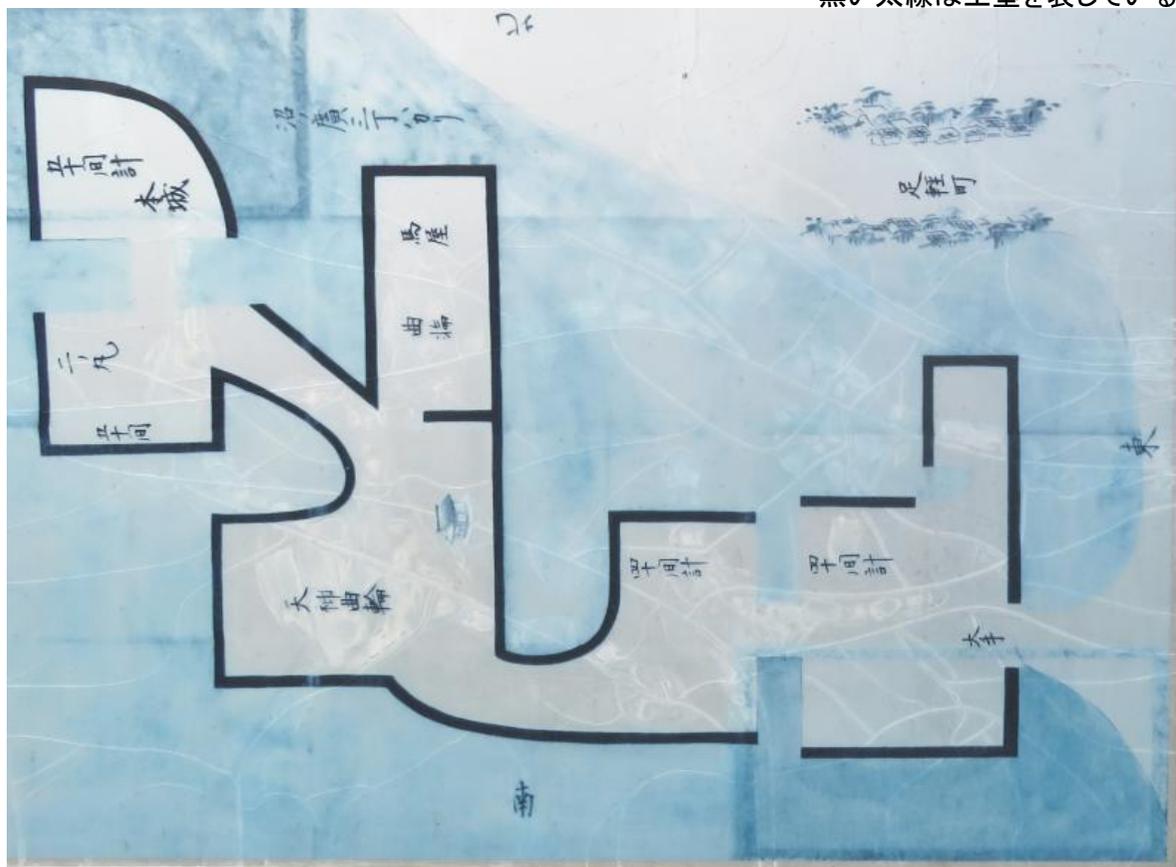
土居ともいい、敵の侵入を防ぐために堀を掘った土を盛り、土手状に築いたものである。古くは弥生時代のものが佐賀県吉野ヶ里遺跡で確認されており、ムラの周囲に堀を巡らし、その外側に土塁が築かれている。

その後、古代には大宰府を守る水城に、中世に至ると武士の館や城にさかんに用いられた。築城法の変化により、江戸時代ではその多くが、より堅固な石垣へと変わっていった。

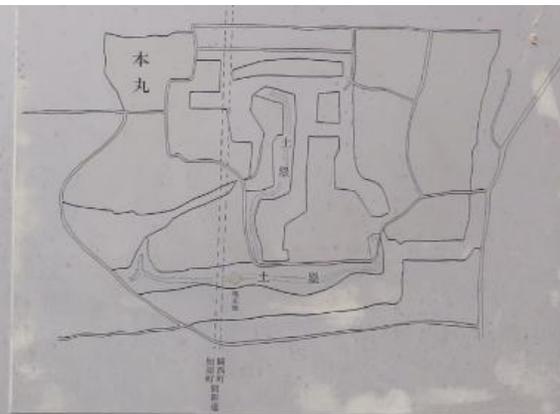


江戸初期の騎西城 広島県立中央図書館蔵『浅野文庫』より

黒い太線は土塁を表している



江戸初期の騎西城 広島県立中央図書館所蔵「浅野文庫」より



明治・大正期の騎西城



昭和40年頃の土塁

東側から見たところ



土塁に登って見たところ/左前方に模擬天守が見える



さて、この道路を前方(南東方向)に進んでみる



少し進んだ突き当たりで、振り返って北西方向を見たところ/前方右手に先程の土塁が見える



突き当たりを右手(南西方向)へ進んでみる/正面の辺りは外堀が左右に横切っていたエリア



その外堀のエリアに説明坂が立っていた



北条氏の手によるとと思われる障子堀が発掘されている

騎西城 障子堀跡

障子堀とは堀の中に敵を掘り残し、敵の侵入を阻害するもので「敵堀」とも呼ばれる。

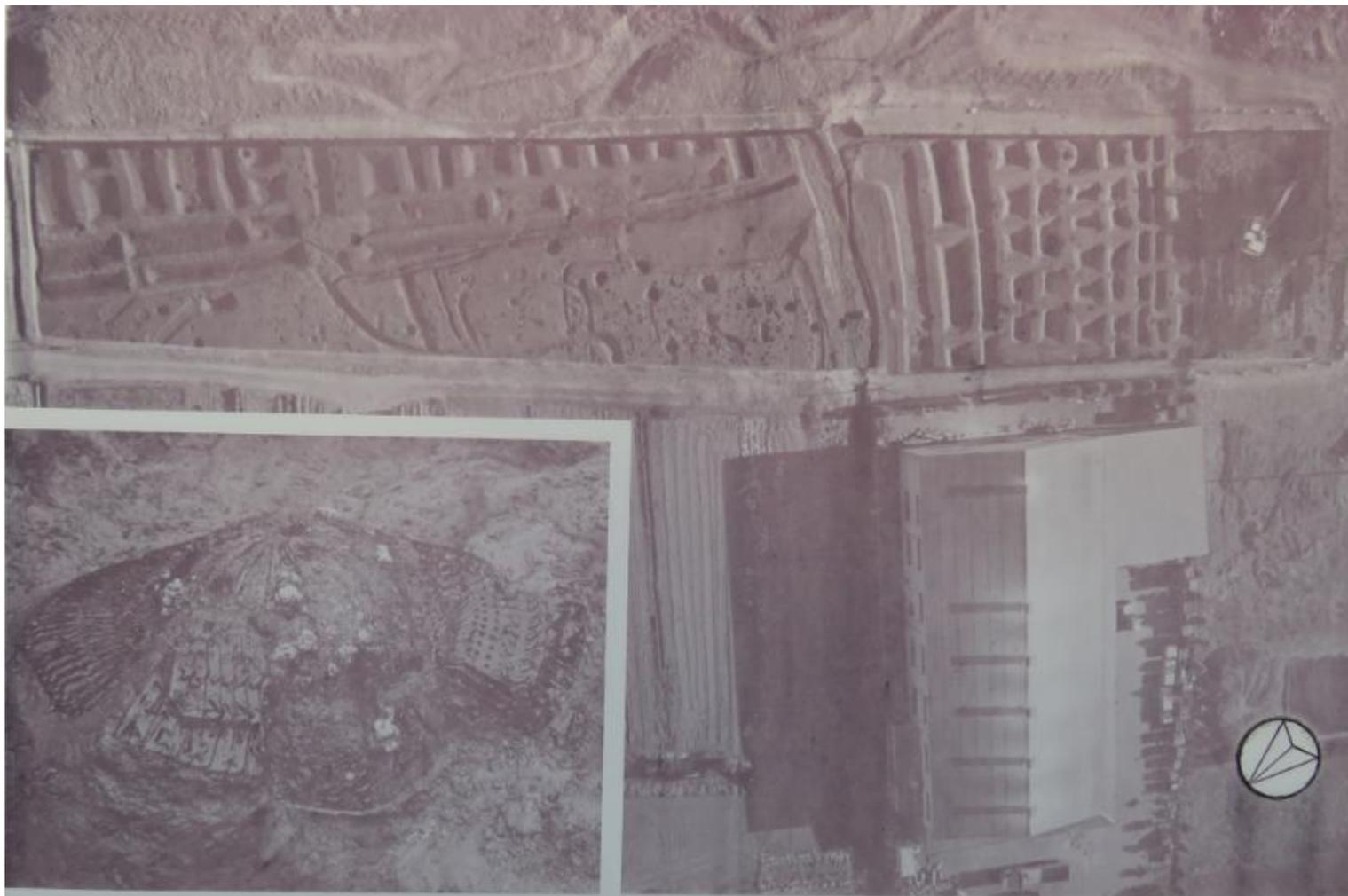
ここで発見された障子堀は戦国時代のもので、堀の幅は約五十メートルである。

堀の中には、深さ約一・五メートルの播鉢状の穴が整然と並んでいる。障子堀は後北条氏が支配した城に多くみられるが、このような構造は全国的にも珍しい。



障子堀航空写真
兜

堀からは南北朝期の特徴を残す兜が出土し、全国的にも発掘例の少ないものとして注目されている。また、弾丸・薙鎌など数多くの武器も出土している。これらは戦乱に明け暮れた騎西城の姿を、髣髴させるものである。



兜

障子堀航空写真

その先で西方向を見ると標柱が立っている/この前方が御蔵屋敷跡らしい/また、左手には武家屋敷群が建ち並んでいたようだ



「御蔵屋敷跡」と記された標柱



さて、先程の突き当たりを今度は左手(北東方向)へ進んでみる/正面のエリアは曲輪(縄張図では丸と表記されている)の一つ



植樹帯に標柱が埋もれている



「騎西城 的場跡」と記されているようだ



その前方(北東方向)を見たところ/この先も曲輪(縄張図では西側の「丸」と表記されている)が続いていたようだ



その右手を見たところ/この前方のエリアも曲輪(縄張図ではもう一つ、東側の「丸」と表記されている)であったようだ



さて、右手(南東方向)に縄張図で東側の「丸」と表記されている曲輪を通して大手門跡へと進もう



左手に標柱が立っている



「騎西城 大手門跡」と記されている



振り返って、今来た方向(北西方向)を見たところ



これはもう一度振り返って、南東方向を見たところ/右前方に元ノ久伊豆(前玉神社)が見える



これが元ノ久伊豆(前玉神社)



前まへ玉たま神じん社しゃ

例大祭 四月十日

当社は「まえたま神社」とも呼ばれ、前玉姫命さきたまひめのみことを主祭神とし、幸いをもたらす神として崇敬すうけいされる。

江戸初期に描かれた「武州騎西之絵図」によれば、当社付近は「元ノ久伊豆」と記されている。久伊豆とは玉敷神社たまぢじんじやのことであるが、騎西城内でたびたび出火するため、この地に鎮座していた同神社が、類焼をおそれて騎西の地へ遷座せんざしたという。当社が玉敷神社の移転

後に祀まつられたものか、それ以前から鎮座するのか定かではない。

境内には菅原社すがわらしや（天神社てんじんしゃ）を祀るが、これは騎西城内にあった天神社を移転したと伝えられる。また、境内の疱瘡社ほうそうしやは、疱瘡てんねんとう（天然痘）にかかったときお参りすると治るといふ。



馬繪講名標の奉納(1864)元年治元

加須市教育委員会

これは元ノ久伊豆(前玉神社)の左手を見たところで、外堀の名残りのような地形が見て取れる



さて、「騎西城 的場跡」の標柱があった所へ戻り、反対に北西方向へと進む



途中で左手を見たところ/前方右手が土塁跡の所で、正面の辺りは外堀のエリアだろうか



振り返って見ると、正面の田圃が更に外堀の雰囲気を感じさせるが・・・



さて、正面が二の丸跡のエリア



左手を見たところ/騎西文化・学習センターなどの複合施設が見える/こちらは天神曲輪跡



右手を見たところ/こちらは二の丸跡のエリア/更に右手には外堀を挟んで馬屋曲輪があったようだ



駐車場脇に標柱が立っている







この周辺には城の二の丸があった。発掘調査では、和
や多量の陶磁器などが出土している。

加須市教育委員会

騎西町
加須市
加須市
加須市
加須市

騎西町

北西方向を見たところ/このエリアが二の丸跡



さて、ここは二の丸跡の北東側で、この先が本丸跡のようだ



これは本丸跡のエリアの北側から、南方向に城域全体を眺めたところ/いずれにしても、泥田沼(外堀)で守られた城であったようだ



さて、ここは鴻巣市に所在する雲祥寺



鐘楼がある





川里村指定文化財
有形文化財
雲祥寺の梵鐘・雲版
昭和五十二年三月二十一日指定
川里村教育委員会

為代壇

雲祥寺

川里村指定有形文化財

雲祥寺の梵鐘

昭和五十一年九月二十日指定

梵鐘は、全高一八四センチ、口径九四センチの鑄銅製で正徳六年（一七一六）の銘があるもので、法華經八卷の全文九万九千九百余字が鏤刻されている。また、雲祥寺が、御朱印寺であったことから梵鐘の乳には、徳川家康から六代将軍家宣までの戒名が刻まれており、歴史的価値が高いものである。

第二次世界大戦中展開された金属回収運動では、寺院の仏具・梵鐘類が強制的に供出させられ、多くの文化財が失われたが、この梵鐘はその価値が認められ、供出を免除された。現在も、儀式等で使用されている。

平成八年十二月

川里村教育委員会



本堂





鴻巣市指定有形文化財

雲祥寺の雲版

昭和五十一年九月二十日指定

この雲版は、明徳五年（一三九四）につくられたもので縦が四九・二センチ、横が四六・六センチあり、つるし孔が一個の大型鑄銅品である。一部破損はあるものの、均整のとれた雲形をしており、貴重な歴史資料である。

雲版は合図のために打ち鳴らしたもので、おもに禅宗寺院で用いられる。銘文は、

（右） 明徳五年^甲五月念五日

（中央） 武州賀村県医王山東光禅寺常住

（左） 住持比丘雪庵希明置之

である。

雲祥寺の雲版について、『新編武蔵国風土記稿』の雲祥寺の項に「……実物に明徳五年の雲版あり、こは足立郡上加村東光寺のものとみゆれど、当寺に伝来せるゆへ、由はつまびらかならず、……」とあり、現在廃寺となっている大宮市日進の東光寺ゆかりのものであるが、雲祥寺に伝わった詳細については不明である。



平成八年十二月

鴻巣市教育委員会

さて、この境内に騎西城主だった小田顕家の墓があると云う



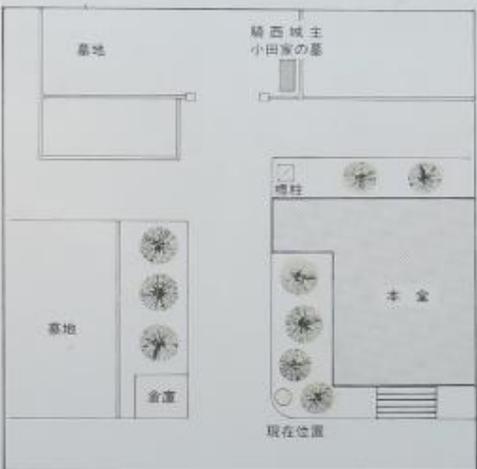
鴻巣市指定有形文化財

騎西城主小田氏の墓

平成七年三月二三日指定

雲祥寺の開基である騎西根古屋城主小田頭家おだあきいえとその息女の墓である。

小田頭家は常陸国(現茨城県)の守護小田氏の一族といわれ、戦国時代に上杉憲政に属し活躍した。墓は、中世の様式を残した宝篋印塔である。



・天文八年(一五三九)銘宝篋印塔

高さ 一一二cm

正面の銘『当山開基 氣窓祥瑞大居士 天文
八亥年八月十日』

※右側面には天正一五年(一五八七)、慶芳大姉の銘も刻まれている。

・慶長一三年(一六〇八)銘宝篋印塔

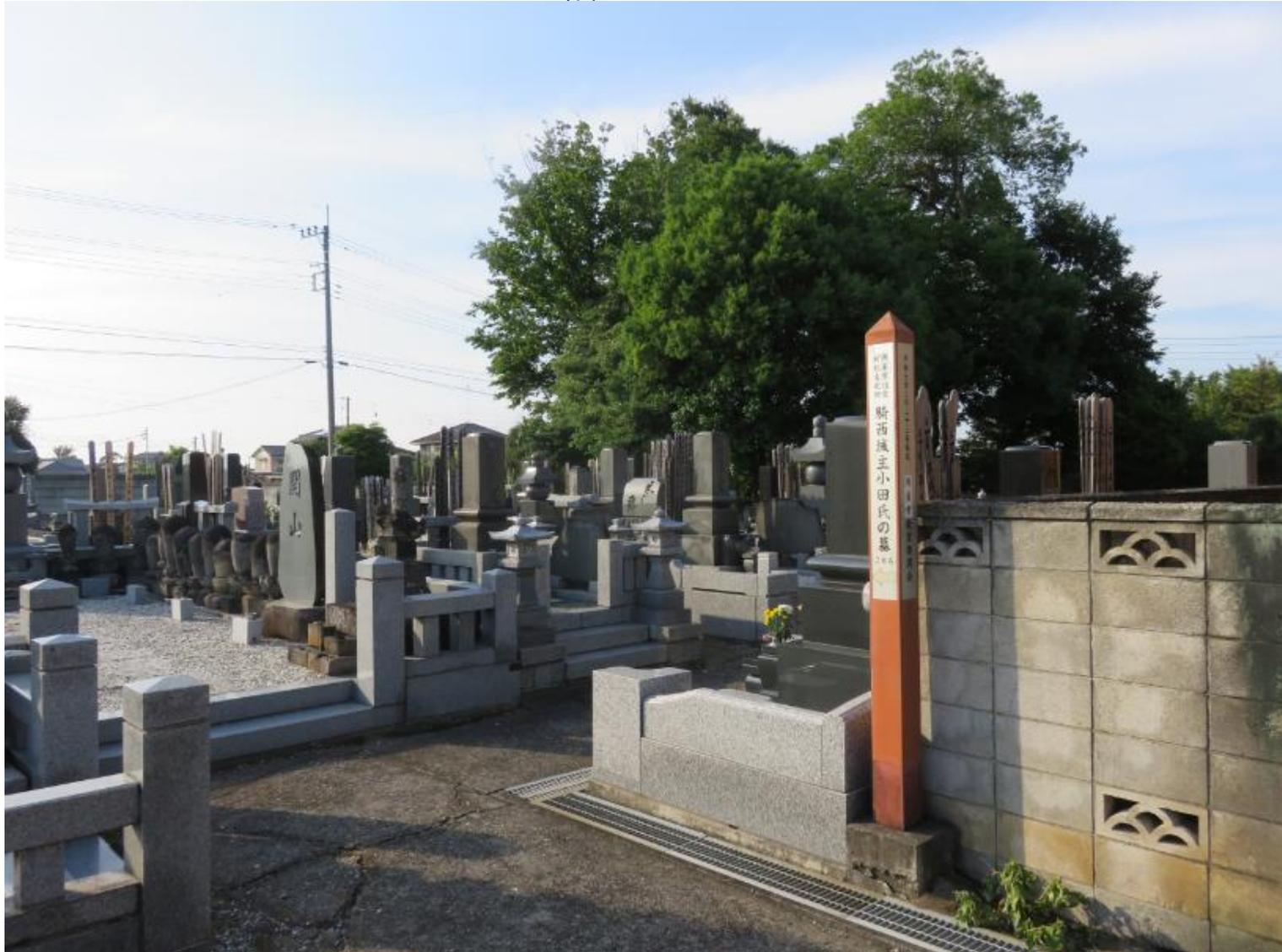
高さ 八三cm

正面の銘『笑月春慶大姉 慶長十三戌年
三月七日』

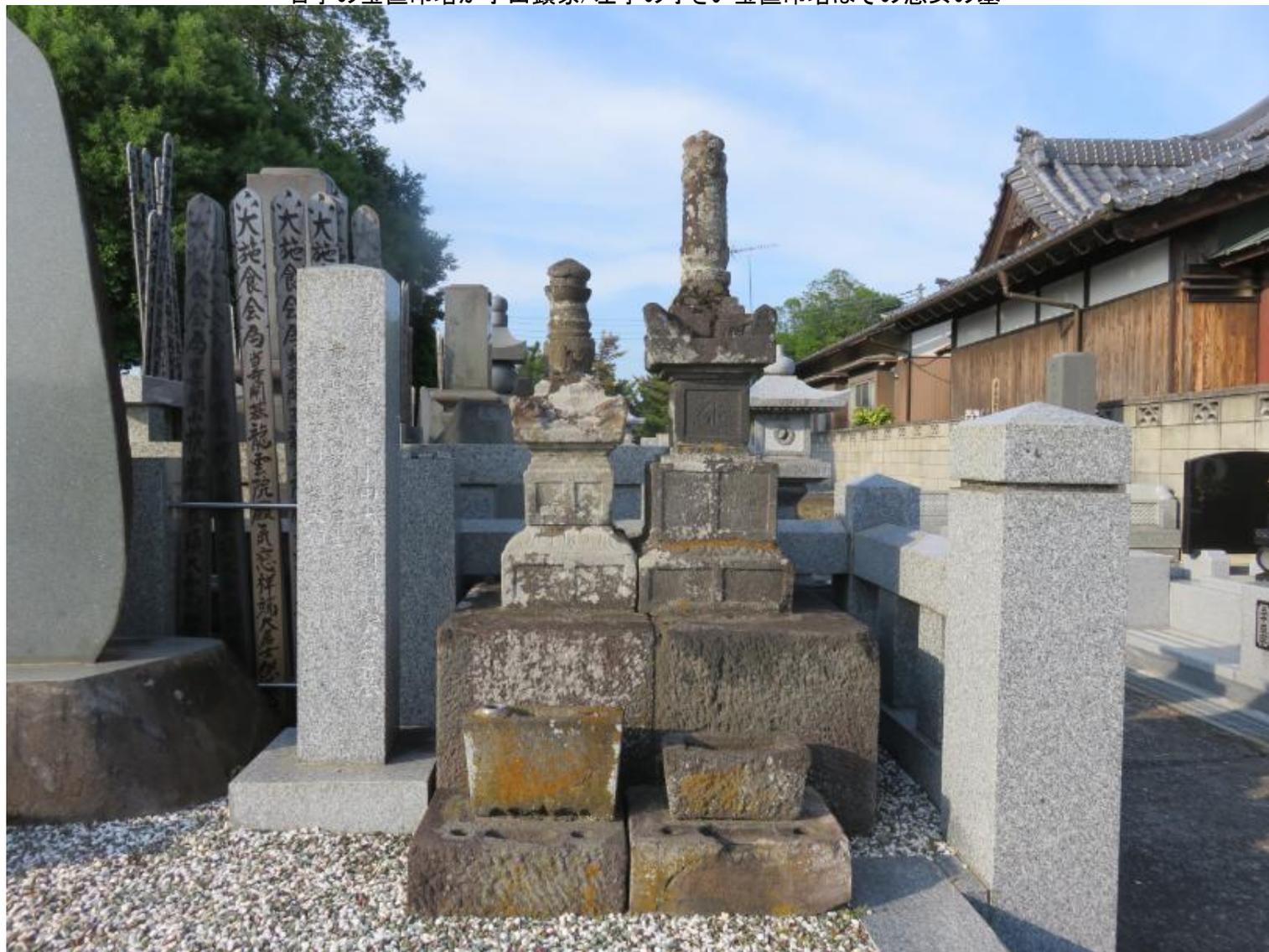
平成七年七月

鴻巣市教育委員会

標柱が立っている



右手の宝篋印塔が小田顕家/左手の小さい宝篋印塔はその息女の墓



左手の石柱に「当寺開基根古谷城主 小田大炊頭源頭家公之墓」と刻まれている



さて、ここは模擬天守の南西側で、正面に説明坂が立っている



ここは公園となっており、縄文時代と古墳時代の住居跡が確認された萩原遺跡という所らしい

萩原遺跡

当遺跡は縄文時代(約四〇〇〇年前)

と古墳時代(約一五〇〇年前)の集落跡で、当所から西一帯がその範囲である。

縄文時代、このあたりには森林が広がり、人々はイノシシや鹿を狩り、木の実を採って暮らしていた。

発掘調査では弓矢の矢じりや、木を切った石斧、漁網の錘など、日常生活の道具が見つかっている。また、首飾りの玉や祭祀のための石棒・埋甕も出土している。なお、縄文時代中期から後期にかけての住居跡が七軒発見されたことから、約一〇〇〇年もの間、このムラが営まれていたことが明らかとなった。



縄文土器



縄文集落復元図



古墳時代の住居跡



カマドの構造



掘り出されたカマド



祭祀に使われた須恵器



日常用具の土師器

古墳時代では、住居跡が十一軒見つかっており、そのほとんどにカマドがある。カマドはこのころ出現したもので、熱を効率よく使い、煙を直接外に出す構造になっている。

住居跡からは甕や蒸し器、皿などの土師器や、須恵器が見つかっている。須恵器は朝鮮半島から伝えられた技術によるもので、畿内(奈良・大阪周辺)で古くから生産されている。ここで出土したのも畿内から持ち込まれたものと思われ、このムラがかなり有力であったことを語っている。

加須市教育委員会

ここがその公園で、城山公園と云う名が付いている/説明板によると、発掘調査では弓矢の矢じりや、木を切った石斧、魚網の錘など、日常生活の道具が見つかった。また、首飾りの玉や祭祀のための石棒、埋甕も出土している。縄文時代中期から後期にかけての住居跡が7軒も発見された。古墳時代では、住居跡が11軒見つかり、そのほとんどにカマドがある。住居跡からは甕や蒸し器、皿などの土師器や、須恵器が見つかった。



こんな塩梅



参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/011saitama/160kaisai/kisai.html>

<http://www.otsukastone.co.jp/blog/2567>

<http://yogokun.my.coocan.jp/saitama/kisaijou.htm>

<http://www.mapbinder.com/Map/Japan/Saitama/KazoShi/Kisaijo/Kisaijo.html>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/musashi/kisai-joyo/>

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~mononofu/kisaizyou.html>

<http://www.water.sannet.ne.jp/u-takuo/kisaizyou.htm>

<http://www.siromegu.com/castle/saitama/kisai/kisai.htm>

http://castle.slowstandard.com/post_918.html

<http://lady-amo.iugem.jp/?eid=283>

<http://suzuki-hitc.blogspot.jp/2013/05/blog-post.html>

<http://kogasira-kazuhei.sakura.ne.jp/joukan-saitama/kisai-jou-kisaimati/kisai-jou-kisaimati.html>

